

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年3月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300575
法人名	有限会社カリヤ
事業所名	グループホーム愛
所在地	鹿児島県鹿屋市下高隈町5039番地8 (電話) 0994-40-6100
自己評価作成日	平成25年12月 12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成26年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

会社所有の畑が2アールあり、年間を通じて季節の野菜、芋等を栽培している。その日の調理当番は畑から収穫した野菜類で調理できる。又、代表により「今、何が収穫できるか」や収穫した作物が届けられ、日々野菜の情報が入手できる。無農薬である。肥料もコンポスト等有機肥料を使用している。他にびわ、みかん等も利用者が収穫に関わる。また数キロ離れた場所に山林を所有しており、月2回(1日と15日)山神祀りに入居者が代表と同行して神酒を楽しむ。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【地域交流と協力体制】

・事業所は二つの地区にまたがっているため、自然に両地区との交流が図れており自治会に加入することで、更に情報が入りやすくなり、それぞれの地区の行事に参加する機会も得られている。
・特に災害訓練では、日曜日に実施すると両地区の消防団や地域住民も参加しやすいのではないかと意見のもと実施し、多数の参加や協力を得られている。

【食事をおいしく食べられるように】

・事業所で栽培している野菜はすべて無農薬で、有機肥料にこだわって作られたものであり、果物も事業所の敷地で採れたものを使用しており、利用者に変な残食もみられない。

【ヒヤリハットの記録と報告】

・ヒヤリハットについては、日々の生活の中で起こるさまざまな出来事の中でひやりとしたことを詳細に記録し、朝夕の申し送りで報告している。更にこれらの記録を管理者がまとめ職員会議で報告することで、徹底した再発防止につなげている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員は運営の基本方針や目的をしっかりと踏まえて理念を共有し、介護の実践につなげるべく園内研修等に於いて学習をしている	事業所の理念とは別に接し方やケアの方法等について示した職員の理念も掲げており職員同士のよりよい関係が利用者や地域への関係性へと発展すると考え理念の共有に努めている。また、理念が現状に即したものとなるよう、わかりやすい言葉や文言の追加など作り替えた経緯もある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	経営者が地元であり（ホーム隣に自宅）ホームも隣近所の人と気軽に声をかけられる環境にある。共用型通所の利用者と入居者は仲良く会話もはずむ。	事業所は地区の境界に位置しているため両地区の自治会に加入して、地域清掃や十五夜、各種会合等に参加するなど積極的に交流している。また、地区の文化祭やもちつきのほか、かぎ引き祭りや山神祭り等にも利用者とともに出かけている。小学校や中学校の職場体験も積極的に受け入れるなど地域とのつながりを大切に考えている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	来園、または電話にて相談事が度々ありその都度直接アドバイスをしたり、しかるべく居宅介護支援事業所等を紹介している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見や提案はサービス向上の為に役立てている また会議には委員以外の地区の役員、消防分団、家族の方も参加してもらうなど工夫もしている 本年度、夜間消防訓練には13人の近隣の方に協力をもらった	会議には家族や地域住民、行政職員らが出席し、主に事業所の取り組みや実情報告のほか、事業所の運営は今後どうあればよいかの意見ももらっている。メンバーから日曜日の夜に訓練を行なえば消防団員も参加しやすいとの意見を受け、地域住民の多数参加も得られる中、災害訓練を実施することができサービス向上に活かすことができた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	電話により日常的な相談や指導を、また提出物等で顔合わせできる機会を通じて助言や指導を受けている	行政職員とは運営推進会議のほか、認定更新時や各種書類提出時に市役所を訪れ事業所の実情や活動について報告している。また、行政側からも感染対策や介護保険改正時の説明会、ケアマネ研修や管理者研修等各種研修を通じて連絡、連携する機会が多くあり良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	基本的に身体拘束をしないケアを行っている	行政主催の身体拘束廃止に関する研修会に参加し、研修後はレポートを作成して職員会議で発表している。事業所前の道路の交通量が多いため職員同士の見守りを徹底させており、地域の方にも事業所の特性を伝えるなど、見守りや声かけがもらえる関係を築いている。言葉を遮るなど職員の言動に問題のある場合は、その都度管理者が職員を注意するなど常に改善を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法については研修会等に積極的に参加し学習しており、施設内でも園内研修に計画を組み込んでいる。資料としては行政からの通達の文書等を使用し、具体的に話し合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	経営者、管理者、職員共に研修等で学ぶ機会を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	全ての文書において説明を行い理解、納得を得て利用してもらっている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見や提言があれば受け止めて直ちに運営に反映できるようにしている	利用者からは日頃の会話やしぐさから、家族からは面会時や家族会、運営推進会議等で意見を聞き取っている。また、遠方の家族にも請求書に事業所便りと手紙を添え状況報告している。ヒヤリハットについては、日誌に記録したものを各自閲覧するとともに、朝夕の引き継ぎで話し合い、更に管理者が報告書にまとめ職員会議で確認し合うなど再発防止の徹底を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回開催の(有)カリヤの幹部会議の他に、日常的に聞く機会があり(お茶や食事時)すぐに反映できる事また社長、施設長に相談して、出来る限り実践している	職員の意見は毎月のケア会議や職員会議で聞き取るとともに、休憩時間等日常的にこまめに聞き取り、これらを設備の改善やケア方法など事業所の運営に反映させている。勤務シフトや休暇の希望、また法人内での異動についても、職員の意見と管理者の意見を考慮しながら利用者に支障をきたさないよう配慮し調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	度々職員の意見を聞いたり会社の方針を話す等して、双方の条件を整えていると思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内外の研修を受ける機会を逃さず、介護の経験年数や本人の意欲に応じた資格取得ができるよう進めている。今年度はヘルパー2級2名の受験者があり、受験対策準備に対する費用を負担した</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隅地区介護事業所連絡協議会に於いて、交流会や研修会が多く、必ず参加している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要求に添って出来るだけ叶えられるよう努力している その結果、本人の安心と信頼を得られていると思う		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には可能な限り家族に来園してもらい、話したり現状をみてもらいながら問題点があれば受け止めて対応できる体制を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたら話を聞いて出来ること等見極め対応を行っている。他のサービス利用は本人や家族からの要望もなく現在グループホーム以外の利用はない		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員は一緒に洗濯物をたたんだり、作業療法により一つのを一緒に作り上げる等実践している。また昔話を聞いたり、時には立派な知恵から介護のノウハウを学ばせてもらう事や調理方法を教わったりする		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が出来ない事を手助けし、また家族にお願いする事もありいい交流が図られる努力をしている。本人に少しでも変化があれば電話をかけて相談したり報告をしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族及び地域の人々の認知症への理解も進んできているので今後も途切れることのないよう支援に努める	本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所を把握し、電話や手紙の取り次ぎ、訪問等を支援している。美容室や商店、お墓参り等については、馴染みの関係が途切れないようケアプランに組み込み、家族と職員とが協力し合っ出かける機会を作っている。また、自宅への一時外出についても積極的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴により孤立しがちな人もあるが、馴染みの関係となり時には衝突しながらも和やかに暮らせている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の家族にも他の施設に移られた利用者の方々にも時折は近況を聞いたり訪ねたりしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の思いや希望にそえるよう努めている（散歩に行ったり、散髪に行ったり等）	日々の生活の中での気付きや思いをアセスメントに落とし、ケアプラン作成時やケア会議等で職員間の情報共有を図っている。本人の暮らし方を一部の人の意見で決めてしまわないよう親族の意見も大切にしている。変化する意見を把握できるように入居後も繰り返し本人家族に意向を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一緒に話をしたり散歩をしたりして今までの暮らしぶりを聞いたりする。入居者個人の要望に応えながら時間を作っては一緒に行動しながら把握していくようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室で昼寝をされたりテレビを観たり散歩や手伝い等、心身の状態を常に把握し、一人一人に合った過ごし方が出来るように努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリングはケア会議でスタッフ全員で行う。本人、家族、介護スタッフ、計画作成担当者他関係者とはその都度話し合って介護計画をたてている	毎月モニタリングを実施し状況把握に努めるとともに、アセスメントのほか日頃の言動や様子等からも本人の思いを汲み取りケアプランに反映させている。ケアプランは本人や家族の意見のほか、主治医の意見や助言等も参考にしながら作成しており、入居後状態変化が見られた場合はその都度、状況に即したプランに作り直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に記録し口頭で日勤者より夜勤者へ、また施設長や管理者に報告される。入居者の情報は共有しほぼ把握して介護に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度のニーズにはその都度本人や家族の要望に可能な限り柔軟に支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員には相談苦情の委員をお願いしており、地域の消防団とは一年に一回避難訓練を通じて入居者の状況を理解してもらい協力を得ている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を重要視し受診をすすめてきている	入居前のかかりつけ医を把握し、入居後も家族と職員が協力しながら受診を支援している。受診時にはバイタルチェック表と近況記録を医師に報告し、受診後の記録については、ケース記録に記入したものを申し送り時に報告し情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制でホームの看護師と相談して、入居者の健康を管理し、適切に見極めができています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中その後の受け入れなど、医療関係者家族とも良く相談し可能な限り早期退院に向けて努力している（入院後2週間を目途としているが、必ずしも2週間ではなく幅を持たせて柔軟に対応している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師や管理者が中心となり家族も含めて検討し可能なかぎりホームで暮らしていけるように努力している	マニュアルや指針を作成し入居時に説明している。また、入居途中でも状態変化時や思いの再確認のため繰り返し話をする機会を設けている。管理者は医療支援の必要な看取りの対応については、現在の職員の力量では困難と考えているが、医療を必要としない場合は、事業所として対応できると考えている。	医療を必要としない看取りには対応していきたいという思いを確認したが、看取りに関する研修会や勉強会が未実施であった。事業所としての力量向上のためにも研修や勉強会の実施、また、他事業所の取り組みについて学ぶ機会が得られると自信につながると思っています。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の普通救命講習を受けており、今後も続けていく。急変時の連絡網及び救急時の情報提供カード等整備している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団及び中央署にお願いして年二回の訓練を実施している（通報、消火の実地訓練、担架搬送の実地等）非常ベルは北側南側の外部に向けて鳴動する仕組みで地域の協力が得られると思う。また放水用の消火栓も定期的に点検、近くの農業用水も使えるよう整備した	年2回消防署と地区の消防団、地域住民の協力を得ながら夜間に火災訓練を実施している。地域の方々には主に避難先での見守りをお願いすることで安心して避難誘導が実施できている。また、居室入口にある表札を裏にすると「避難済み」と一目でわかるよう工夫もしてある。備蓄については、米や食料、飲料水等が十分に確保されており、炊き出しの準備も整えられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時折、声も大きくプライバシーを損ねた言葉づかいであると感じる時もある。その都度注意指導、また職員研修も高齢者の尊厳について学んでいる	プライバシー保護に欠ける言動を確認した場合は、管理者がその都度注意指導しており、職員会議でも繰り返し提起し職員間で話し合うようにしている。排泄記録の保管場所や写真等個人情報の取り扱いについては、本人家族の同意を得るなど十分に配慮が感じられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に希望が解る限りは希望に沿うように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にして暮らしてもらえるようにはしているが、見守りに欠ける時間帯には必ずしもというわけではない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	化粧、肌の手入れ等したい人は化粧品購入 理容 美容等も本人の希望に沿っている。2ヶ月に一回位は化粧品店のボランティアを受けている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物、好きな物等聞いたり、食事の形態等希望や状態に合わせている。出来る人はスタッフと一緒に台拭き、お膳拭きなどやっている	毎日の献立は当日の調理担当者が、利用者の食べたい物や冷蔵庫内にある食材等から決め、調理の下ごしらえや食器拭き等一連の工程を利用者と職員が一緒に行なっている。自家栽培の野菜や卵等をふんだんに使ったメニューは利用者に大変好評で、利用者個人の状況に合わせて、ミキサー食等工夫し提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスはほぼ同じ量を摂取されている。身体状況等多少の差があるも皆さんほぼ全量摂取される。水分量は一日の理想摂取量がほぼ摂れている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず実施している。義歯洗浄剤や義歯調整剤など常時整備しておく。また洗口液を使用して口臭を防止する人もいる		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の訴えと時間毎の声かけ誘導にてトイレでの排泄ができるよう支援している	水分摂取量と排泄チェックを同じ表内にまとめ把握しており、時間やトイレに行きたい素振りやしぐさから判断してトイレ誘導につなげている。また、夜間は睡眠を妨げない範囲内で極力トイレに誘うなど自然な排泄を適切に支援している。日々の排泄状況を勘案しリハビリパンツを外す方向でプランに組み込み対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常習性便秘で緩下剤服用の入居者もあるが、快便につながるよう工夫はしている(十分な食事水分の摂取ができていないか)三日以上排便がない時は医師の指示のある人は緩下剤で調整している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	体調不良や本人の気分がすぐれない時等以外は毎日入浴できる環境にある。入浴できない時は足浴や下半身浴を実施している	特に入浴日は決めず対応しており、入浴が楽しめるよう入浴剤のほか、ゆず湯やバラ湯、菖蒲湯など提供している。入浴を拒む場合は会話をしながら浴室に誘導したり、同性介助の要望がある場合はそのように対応することで安心できる環境の下での入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室でゆったりと他の入居者を気にせず過ごしてもらえるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の薬の処方について飲み方やその内容、副作用など把握するように指導している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理やり何かをしてもらうのではなく、出来る人に出来る事をしてもらっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	頻繁に外出はできないが、広い庭がある為、散歩等は行っている。家族とはホテルで昼食を一緒に取る機会もある	日常的な散歩や買い物のほか、平和公園や大隅湖にお弁当持参で出かけた後、かっぱ座や作品を出展している認知症セミナーにも出かけている。また、小学校の運動会への参加や事業所の敬老会に小学生が作文を読み聞かせに来てくれるなどの交流もある。美容院など利用者個人の出かけたい場所にも職員が同行しており、歩行が難しい方にはリフト車で出かけるなど積極的に外出を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>少額持っている方もいるが使う機会は少ない。ただ楽しみの為、安心感の為、自分で所持することは大切なことと考えている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話をかけたい申し出があればその都度かけてあげることある。手紙が届くことはあっても入居者自身が書くことは殆どない</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>不快な音や光は、個々の訴えに合わせて消したり小さくしたり配慮しており、居心地よく過ごせていると思っている</p>	<p>三枚引き戸の玄関は開口部が広いので出入りしやすく、フロアの天井は高く開放的であり、ソファーに座りくつろげる。また、フロアを中心にした居室の配置となっているため、さり気なく利用者の様子を見守ることができ、利用者にとっても大変過ごしやすい造りとなっている。共用のトイレはわかりやすいよう大きく表示してあり、浴室は浴室内と脱衣所に暖房と乾燥機が備えられ湯冷め防止や洗濯物乾燥に一役買っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う人と一緒に過ごせるなど自分のスペースは確保されている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の写真を飾ったり、本人の作品を貼ったりと環境作りをしている。洗面道具等本人の使いやすいものを使用している。ポータブルトイレは座り易いように設置するようにしている</p>	<p>各居室にはベッドやエアコンのほか、クローゼットや洗面台が備え付けられており大変使いやすい環境となっている。また、利用者の希望や状況等に応じて畳やクッションを敷くなど対応している。室内の飾りつけはゆっくりくつろげる場所となるよう思い思いの品を利用者と職員が一緒になって飾り付けている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者の方それぞれの出来る事、出来ない事を把握してその人にあった生活援助に努めている</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員は運営の基本方針や目的をしっかりと踏まえて理念を共有し、介護の実践につなげるべく園内研修等に於いて学習をしている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	経営者が地元であり（ホーム隣に自宅）ホームも隣近所の人と気軽に声をかけられる環境にある。地区の入居者には地区の知人が来園し入居を励ましている		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	来園、または電話にて相談事が度々ありその都度直接アドバイスをしたり、しかるべく居宅介護支援事業所等を紹介している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見や提案はサービス向上の為に役立てている また会議には委員以外の地区の役員、消防分団、家族の方も参加してもらうなど工夫もしている 本年度、夜間消防訓練には13人の近隣の方に協力をもらった		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	電話により日常的な相談や指導を、また提出物等で顔合わせできる機会を通じて助言や指導を受けている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	基本的に身体拘束をしないケアを行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法については研修会等に積極的に参加し学習しており、施設内でも園内研修に計画を組み入れている。資料としては行政からの通達の文書等を使用し、具体的に話し合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	経営者、管理者、職員共に研修等で学ぶ機会を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	全ての文書において説明を行い理解、納得を得て利用してもらっている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見や提言があれば受け止めて直ちに運営に反映できるようにしている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回開催の(有)カリヤの幹部会議の他に、日常的に聞く機会があり(お茶や食事時)すぐに反映できる事また社長、施設長に相談して、出来る限り実践している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	度々職員の意見を聞いたり会社の方針を話す等して、双方の条件を整えていると思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	内外の研修を受ける機会を逃さず、介護の経験年数や本人の意欲に応じた資格取得ができるよう進めている。今年度はヘルパー2級2名の受験者があり、受験対策準備に対する費用を負担した		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	大隅地区介護事業所連絡協議会に於いて、交流会や研修会が多く、必ず参加している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要求に添って出来るだけ叶えられるよう努力している その結果、本人の安心と信頼を得られていると思う		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には可能な限り家族に来園してもらい、話したり現状をみてもらいながら問題点があれば受け止めて対応できる体制を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたら話を聞いて出来ること等見極め対応を行っている。他のサービス利用は本人や家族からの要望もなく現在グループホーム以外の利用はない		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員は一緒に洗濯物をたたんだり、作業療法により一つのを一緒に作り上げる等実践している。また昔話を聞いたり、時には立派な知恵から介護のノウハウを学ばせてもらう事や調理方法を教わったりする		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が出来ない事を手助けし、また家族にお願いする事もありいい交流が図られる努力をしている。本人に少しでも変化があれば電話をかけて相談したり報告をしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族及び地域の人々の認知症への理解も進んできているので今後も途切れることのないよう支援に努める		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴により孤立しがちな人もあるが、馴染みの関係となり時には衝突しながらも和やかに暮らせている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の家族にも他の施設に移られた利用者の方々にも時折は近況を聞いたり訪ねたりしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の思いや希望にそえるよう努めている（散歩に行ったり、散髪に行ったり等）月に2回は山の神祀りに出かけ神酒を楽しむにしている人もいる		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一緒に話をしたり散歩をしたりして今までの暮らしぶりを聞いたりする。入居者個人の要望に応えながら時間を作っては一緒に行動しながら把握していくようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室で昼寝をされたりテレビを観たり散歩や手伝い等、心身の状態を常に把握し、一人一人に合った過ごし方が出来るように努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリングはケア会議でスタッフ全員で行う。本人、家族、介護スタッフ、計画作成担当者他関係者とはその都度話し合って介護計画をたてている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に記録し口頭で日勤者より夜勤者へ、また施設長や管理者に報告される。入居者の情報は共有しほぼ把握して介護に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度のニーズにはその都度本人や家族の要望に可能な限り柔軟に支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員には相談苦情の委員をお願いしており、地域の消防団とは一年に一回避難訓練を通じて入居者の状況を理解してもらい協力を得ている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を重要視し受診をすすめてきている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制でホームの看護師と相談して、入居者の健康を管理し、適切に見極めができています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中その後の受け入れなど、医療関係者家族とも良く相談し可能な限り早期退院に向けて努力している（入院後2週間を目途としているが、必ずしも2週間ではなく幅を持たせて柔軟に対応している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師や管理者が中心となり家族も含めて検討し可能なかぎりホームで暮らしていけるように努力している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の普通救命講習を受けており、今後も続けていく。急変時の連絡網及び救急時の情報提供カード等整備している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域の消防団及び中央署にお願いして年二回の訓練を実施している（通報、消火の現地訓練、担架搬送の現地等）非常ベルは北側南側の外部に向けて鳴動する仕組みで地域の協力が得られると思う。また放水用の消火栓も定期的に点検、近くの農業用水も使えるよう整備した</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時折、声も大きくプライバシーを損ねた言葉づかいであると感じる時もある。その都度注意指導、また職員研修も高齢者の尊厳について学んでいる		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に希望が解る限りは希望に沿うように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にして暮らしてもらえるようにはしているが、見守りに欠ける時間帯には必ずしもというわけではない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	化粧品、肌の手入れ等したい人は化粧品購入 理容 美容等も本人の希望に沿っている。2ヶ月に一回位は化粧品店のボランティアを受けている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物、好きな物等聞いたり、食事の形態等希望や状態に合わせている。出来る人はスタッフと一緒に台拭き、お膳拭きなどやっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスはほぼ同じ量を摂取されている。身体状況等多少の差があるも皆さんほぼ全量摂取される。水分量は一日の理想摂取量がほぼ摂れている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず実施している。義歯洗浄剤や義歯調整剤など常時整備しておく。また洗口液を使用して口臭を防止する人もいる		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の訴えと時間毎の声かけ誘導にてトイレでの排泄ができるよう支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常習性便秘で緩下剤服用の入居者もあるが、快便につながるよう工夫はしている(十分な食事水分の摂取ができていないか)三日以上排便がない時は医師の指示のある人は緩下剤で調整している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	体調不良や本人の気分がすぐれない時等以外は毎日入浴できる環境にある。入浴できない時は足浴や下半身浴を実施している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室でゆったりと他の入居者を気にせず過ごしてもらえるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の薬の処方について飲み方やその内容、副作用など把握するように指導している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理やり何かをしてもらうのではなく、出来る人に出来る事をしてもらっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	頻繁に外出はできないが、広い庭がある為、散歩等は行っている。家族とはホテルで昼食を一緒にとる機会もある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>少額持っている方もいるが使う機会は少ない。ただ楽しみの為、安心感の為、自分で所持することは大切なことと考えている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話をかけたい申し出があればその都度かけてあげることある。手紙が届くことはあっても入居者自身が書くことは殆どない</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>不快な音や光は、個々の訴えに合わせて消したり小さくしたり配慮しており、居心地よく過ごせていると思っている</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う人と一緒に過ごせるなど自分のスペースは確保されている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、本人の作品を貼ったりと環境作りをしている。洗面道具等本人の使いやすいものを使用している。ポータブルトイレは座り易いように設置するようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方それぞれの出来る事、出来ない事を把握してその人にあつた生活援助に努めている		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない